

## 令和2年度 小平市立小平第三中学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 自らの能力を高め活用し、これからの社会に貢献できる人材を輩出する学校を目指す。  
健康「ゆたかな心、たくましいからだ」、実践「進んで学び、積極性を養う」、協力「ひとはみんなのために みんなはひとりのために」

### 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 自らの能力を高め活用し、これからの社会に貢献できる人材を輩出する学校
- 【目指す児童・生徒像】 進んで学び思いやりのある、心身ともに健康な子ども
- 【目指す教師像】 教育公務員としての使命と自覚をもち、意欲的に業務に携わることのできる教師

### 前年度までの学校経営上の成果と課題

成果：・自己肯定感、自尊感情を高め意欲的に学校生活を送る生徒を育成 ・特別支援学級との交流及び共同学習の実施 ・地域との連携  
課題：・主体的、対話的で深い学びの取組 ・一部生徒の規範意識の低下 ・不登校生徒の増加

|            | 具体的方策  | 第1回評価 |      | 課題と対策   | 第2回評価 |      | 学校関係者評価   | 課題と次年度以降の対策   |
|------------|--|-------|------|---|-------|------|---|---|
|            |  | 努力目標  | 成果目標 |   | 努力目標  | 成果目標 |   |   |
| 健全育成       | 生徒専門委員会を支援し、生徒の主体的な取り組みを大切にしながら落ち着いた学習環境と生活環境を整備する。                | 4     |      | 臨時休業や分散登校があったため、委員会や係生徒の選出が遅くなった。前年度からの取り組みを確実に引き継がせることが課題である。学校生活の基本的な生活習慣をしっかり身に付けさせ、生徒の主体的な活動を支援する。          | 4     | 4    | 様々な制約がある中で代替行事の企画等ポジティブな発想が大切。生徒会など生徒の主体的な取り組みを支援する体制がとれると良い。書写ボランティア等で授業支援を行ったが、生徒は指示に素直に従い、指導には丁寧に感謝の言葉をかけてくれる生徒が多い。校内外でもよく挨拶をしてくれる。                    | 活動に制限があった中で生徒達なりにやるべきことを考え主体的に行動できた。生徒会役員は校内のコロナ対策や新入生説明用動画の作成などに意欲的に取り組み成果をあげた。教育活動アンケートで「楽しく学校に通えている」と肯定的に回答した生徒は前年度比+9%で88%であった。 |
|            | 場に応じた立ち居振る舞いを指導し、保護者代表による挨拶週間や生徒会役員による学区内の小学校と連携した挨拶運動を実施する。       | 4     | 4    | 始業から朝読書の時間を守らせることを周知した。落ち着いた学習環境や生活環境を整えることが課題。授業規律の維持を意識させるとともに、場に応じた立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー等を守らせ、落ち着いた学習環境と生活環境を整える。 | 4     | 4    | 授業規律の維持を意識させるとともに、場に応じた立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー等を守らせる指導を行った。例年に比べ、全校揃って挨拶をする機会が減少したことが残念であった。学区内小学校と連携したあいさつ運動も実施できなかった。状況を見ながら徐々に挨拶の機会を増やしたい。                    |   |
| 学力向上       | 「英語」「数学」で指導方法改善授業を実施、1年生の数学ではティームティーチングも実施し学力の底上げを図る。              | 3     |      | 個別に支援の必要な生徒に対してきめ細かな支援が必要。学習に苦手意識のある生徒に対して個別な対応を考えることが課題である。個々のニーズを把握する必要がある。成果資料の収集はできなかった。                    | 4     |      | 保護者の立場から、授業参観や保護者会がなく、学校の授業がどのように行われているか知るすべがなかった。臨時休業等で実施できなかった分の授業内容がどこまでできたのか心配だった。部活動時間の制限があったので、地域未来塾のような放課後学習の場があったのは学力補充の面で助かった。                   | 少人数指導について、「児童生徒の学力向上を図るための調査」が実施されなかったため効果検証ができなかった。1年生数学 ティームティーチングは個別に支援の必要な生徒に対してきめ細かな対応ができ、成果があがった。次年度も継続したい。                   |
|            | 校内研修会で新学習指導要領で求められる学力観について理解を深める。授業では「ねらい」や「めあて」を明確にし「振り返り」の活動を行う。 | 4     |      | 校内研修会を開催することができなかった。授業では「ねらい」や「めあて」を明確にし「振り返り」の活動を行うことを意識する。成果資料の収集ができなかった。                                     | 4     |      | 臨時休業で指導内容の重点化を行う必要があり、効率よく教え込む授業スタイルが主となった。授業では「ねらい」や「めあて」を理解させることが定着したが「授業の流れ」の提示や「振り返り」の活動の改善が課題である。活動の意義について共通理解を深める。                                  |   |
| 特別支援教育     | スクールカウンセラーの複数配置やスクールソーシャルワーカーを活用した外部機関との連携や訪問活動により相談体制を充実させる。      | 4     | 4    | 校内委員会を毎週定期的に開催し、生徒の状況と対応について情報交換を行った。様々なニーズに応えることが課題である。具体的な支援方法についての検討を進める。                                    | 4     | 4    | 特別支援教室の開室にあたって美術室から特別支援教室への改装が着々と進行している状況が確認できた。特別な支援の必要な生徒に対して様々な配慮がされていることがわかった。  | 休校期間、分散登校期間中も相談体制を整えた。保護者教育活動アンケートで、肯定的回答は64%であった。校内委員会では巡回相談の心理士から様々な知見や個別の対応策について助言を受けることができた。教員の共通理解と実践を進めたい。                    |
|            | 障がい者理解授業や交流及び共同学習を実施する。  | 4     |      | 臨時休業の影響で交流及び共同学習は実施できていない。障がい理解授業は2学期末に1年生で実施する計画を立案する。   | 4     | 2    | 障がい理解授業は2学期末から3学期始め実施した。教員の教育活動アンケートでの肯定的回答は後期が前期比+4%と向上した。保護者教育活動アンケートでは肯定的回答は44%であった。「わからない」との回答が40%と例年より多かった。保護者会の中止もあり学校の取り組みをPRする場が少なかったことの影響も考えられる。 |   |
| 業務改善・働き方改革 | 教員一人一人が時間を意識した働き方を実践する。  |       |      | 臨時休業や分散登校が実施された関係で、在宅勤務や時差勤務をとる教員が大幅に増加した。成果資料は、この時点で未集計である。  | 3     | 4    | 今年一年、生徒はよく我慢したと思うが生徒だけではなく教職員もよく我慢して指導にあたっていた。働き方改革については改善すべき点が多すぎて現場で行われているか検証が必要。教職員の働き方改革の受け止めを分析することも必要ではないか。   | 週あたりの在校時間は年間平均で職員全体の90%が60時間以内であった。初任者や分掌主任等の特定の教員の勤務時間の超過の解消が課題である。業務の効率化や分担を一層進める必要がある。   |
|            | 年次有給休暇の取得目標を明示し積極的な休暇取得を促す。  |       |      | 臨時休業や分散登校が実施された関係で、休暇を取得する教員も増加した。成果資料は、この時点で未集計である。  | 2     | 3    | 新型コロナウイルスへの対応が終わり、学校が平常に戻った場合に現状維持ができるかが課題である。引き続き休暇が取りやすい環境を整える。   |   |